管 佳夫

# 水無月 6月に(AU MOIS DE JUIN)

コロナ騒動で外出禁止令が発令されたのが 3 月 15 日のこと、それからは出来るだけ家に閉じこもって今日迄 3 ヶ月余りが過ぎ去きました。若葉であった木々の葉はすっかり濃い緑色となってポプラ(le peuplier)の枝に掛けたカササギ(la pie)の巣が葉に隠れてしまいヒナの様子も見えなくなってしまいましたが、いつの頃からかよく晴れた日には黒ツグミ(le merle)が鋭い声で歌うようになり、夏が近い事に気が付きました。

今は外出禁止令も解除され、と云っても規制が緩和されたに過ぎませんが、外出時には必携だった各種の証明書は不要、 自宅からの制限距離や時間の制限も無くなり、相変わらずマスクを掛け、人と人との間の距離は守らなければならないに しても、こちらの人がよく云う"ラ・リベルテ(Ia liberté・自由)"が戻って来たかに感じます。

いつもでしたらツツジ(l'azalée) や石楠花(le rhododendron)、紫陽花 (l'hortensia)を見に出掛けるところですが今年は我慢、アパルトマンのテラスの小さな杏の木に生った 9 個の実が色付いて行くのを楽しみに眺め、シーズン最後の真っ赤な小粒の苺「シフロレット(la ciflorette)」の香りと酸味に春を懐かしんでいます。





# 「ターナー・絵画・水彩画展」(Expo. « TURNER, peintures et aquarelles » )

英国の代表的な印象主義の画家ウイリアム・ターナーは 1775 年に薄暗いロンドンのコヴェントガーデンで理髪 師を父に生まれ、多くの旅を通して光と色を求め、朝に 夕に太陽を仰ぎ、風や雨、霧や雲、悪天候の中にすら光を探し、チェルシーに引き揚げてから「太陽は神である (le Soleil est Dieu)」と云って 1851 年に亡くなりました。

クロード・モネも大いに影響を受けたと云われています。 今回はテート・ギャラリーのコレクションから「アヴォ ン峡谷の眺め(Vue desgorges de l' Avon)(1791)」、 「ジュミエージュ村(Jumièges)(1832)」等の水彩画を 中心に展示しています。



#### 2021年1月11日迄 ジャクマール・アンドレ美術館にて 毎日10時―18時

Musée Jacquemart André, 158, Boulevard Haussmann, 75008 Paris (Métro: Miromesnil):

当美術館は 19 世紀の銀行家夫妻の館で、音楽の間、吹き抜けの室内庭園、天井画のあるルイ 15 世様式の大小のサロンにティエポロやボッティチェリ等イタリー・ルネッサンスの絵画・彫刻が飾られていて、それだけでも訪れる価値があると思います。レストランもありランチも味わえます。

## クリスト逝く(Décès de Christo)

1985 年にセーヌに掛かる橋"ポン・ヌフ"をすっぽり布で包み込んでしまったブルガリア生まれのアーチストのクリスト (Christo Javacheff)が、今年の4月にはパリの凱旋門を包むと云う計画がポンピドー・センターから発表されていましたが(小信 162 号参照) コロナ騒動により9月に延期となり、更に来年1月に変更され、ポンピドー・センターにての展覧会も決まったのですが、クリスト本人が惜しくも亡くなってしまいました。(1935-2020) 実現すれば青みがかった銀色の布に包まれ、紅いロープで結ばれ、風のままに膨らみ、揺れ、陽光に表情を変える凱旋門が見られるはずでしたが、、、残念なことです。



Photo by conaisssance des arts

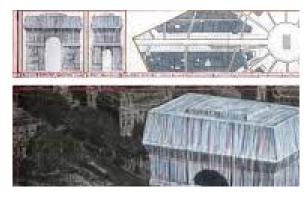


Photo by Art Newspaper



Photo by Le Parisien

### 「サ・エ・ラ」コロナウイールス « Le coronavirus »(suite)

5月11日に外出禁止令が条件付きで解除されましたが、5月も末になりますと、数字の上ではコロナ関連の病人は減ってはきたものの、他の病人を収容するベッド数は相変らず不足している等々、さすがに皆の我慢も限界に来た様で、特に医療関係者に疲労が目立ちました。病院近くの壁には「疲れ果てた看護人、看護人が危ない(Soignants épuisés, Soignants en danger)」或いは「白衣、黒い怒り(Blouses blanches, colère noire)」といった"落書き"が見られました。5月30日現在コロナ入院患者数14380人(集中治療室・重症者1325人を含む)、コロナ死亡者数は3月1日以来合計28771人で、TVでは政府のコミュニケが日に何度も流れ、「ウイルスは常に居る、常に漂い続けている、ご用心下さい、、、、」(Le virus est toujours là ""Le virus continue à circuler, ""Restez prudents, "")の言葉を繰り返し、カフェやレストラン、学校の教室など、普段は割合にいい加減な様ですが、しかめつ面で物差しでテーブルや椅子の距離を測っている姿が見られました。政府は5月11日の外出規制緩和から6月1日を第1段階、6月21日迄を第2段階、そして6月22日以降を第3段階、と設定しましたから、これからは第3段階に入ることになり、公園、海岸、湖岸、美術館、映画館、名所旧跡、展示会場・各種ホール、遊園地、宿泊施設、等々殆ど全てがマスク着用を条件に再開されます。

6月に入って目立って話題に上がったのは、日本が他国と比べて意外に感染度が低く、重症者や死亡例が少ないのは何故なの か、ということ、、、。それは日本人の衛生意識・感覚が優れていて、普段から手洗い、入浴等、清潔を重んじる生活習慣が高 く、市町村の要請事項に従い協力する行動や、感染や症状の解明・研究と、それによる検討と対策が為されている、、、とい う事でした。それに比べて当地では「マスクを掛けろ、手を洗え、大勢が集まるな、距離を置け、、、、」と叫び続けているよ うに感じます。もっとも「外出するな、、、」と云っても、低所得で毎日休まず働かねば食べられない人も多く、「テレ・ワー ク」なんて飛んでもない、、、しかしこの人たちのお陰で社会が何とか成り立っている事実は否定できないと思います。マス クーつ供給出来ず、現場を知らず、もっともらしく措置だけを決める人達への市民の不満と怒りは、この機会に次第に露わ となってきました。6月2日にカフェやレストランがテラスでのみ営業再開しましたが、6月1日深夜には6月2日になるの を待ち兼ね、テラスの客席に群がる人達、、、店の主人はマスクを掛け、消毒液の瓶を置き、長い物差しでテーブル間の距離 を測って、やってますよ、と云わんばかり、集まってきた人達の何と嬉しそうな顔、、、こんなことが感染拡大の原因になる のでは、と心配しました。しかし 6 月 3 日には丁度食事時間の夕刻に凄い雷雨、、、天の皮肉か、警告か、、。同じ頃、アメリ 力での警官による暴行と人種差別問題が起こり、フランスでも同様の事件があって「警察の暴力と人種差別に対する抗議」 がコロナウイルスを上回り、今日に続いています。6月9日、禁を冒して人々が大勢集まり、集会とデモ、、、、コロナは忘れ られた感があります。時にコロナ入院患者数 11961 人、その中重症者 955 人、初めて 1000 人を割りました。3 月からのコ ロナによる死亡者数は 29296 人、病院だけでも毎日 2 桁の人が亡くなっています。コロナ騒動で多くの店舗や会社が倒産、 失業者数がうなぎ上りですが、慈善団体への献金・寄付金の額は普段の700%増とのこと、市民の強い連帯感(la solidalrité) を感じました。6月14日、北京やお隣りドイツで第2次感染拡大か、というニュースが流れる頃、マクロン大統領が演説、 各種規制の全面解除を宣言しました。この日の入院患者数は 10535 人、重症者はその中 820 人、死亡者合計は 29547 名、、、、 6月16日、昼夜を問わず闘う医療関係者が「英雄」と称えられながらも具体的な待遇改善が為されていない医療現場の極限 の状況がデモとなって表現されました。22 日からは学校も始まりますが、夏休みを短くする話は一切聞いたことも無く、ヴ アカンスは何処へ、国内か外国か、も話に上り、学校へ行っても夏休み迄あと 1 週間、、、学校へ行っても何にもならないか ら行かない、との声が強い様です。

2020 年 6 月 21 日 Saint Rodolphe 日の出 05 時 46・日の入 21 時 58 パリ朝夕 12℃/日中 23℃曇天

<sup>&</sup>quot;Ensemble, bloquons l'épidémie"「みんなで感染を防ぎましょう」皆様お元気でご無事にお過ごし下さい。